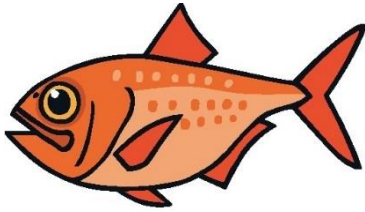


キンメダイ



- 水深 200～800m の海山や陸棚縁辺部に生息し、県内では銚子沖、勝浦沖、東京湾口漁場で立縄（釣り）により漁獲される。
- 満 2 歳で尾叉長 19cm 体重 180g に達した後、4 歳で 27cm 430g、10 歳で 35cm 1,050g に達する。
- 産卵期は 6～8 月。

資源評価

銚子沖

水準：高位

動向：横ばい



勝浦沖

水準：高位

動向：増加



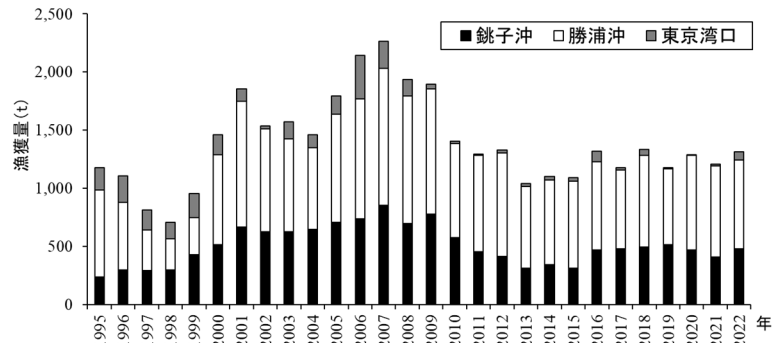
東京湾口

水準：中位

動向：横ばい



漁獲量



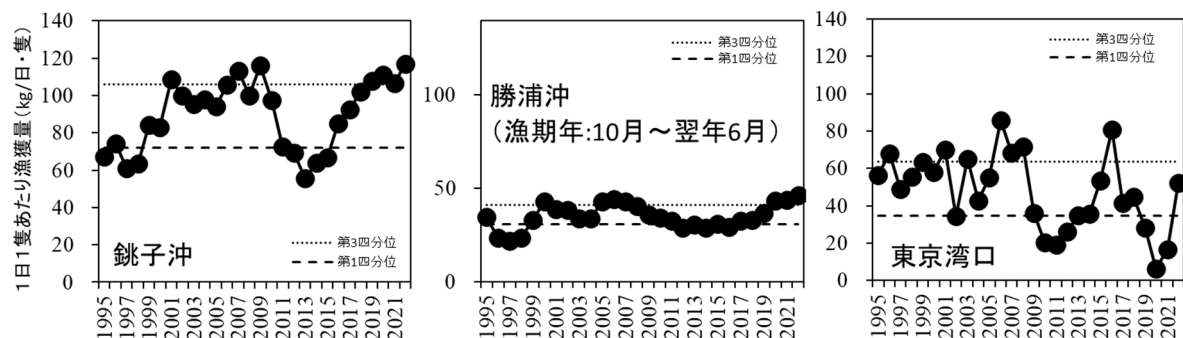
キンメダイの漁場別漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

- 千葉県全体の漁獲量は 1999 年から増加し、2007 年には最大の 2,263t が漁獲された。2008～2013 年は減少傾向が続いたが、2016 年以降は 1,200t 前後で横ばい傾向にあり、2022 年は 1,313t であった。

注）資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値（CPUE）から 4 分位により評価した。
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- 資源水準及び動向は、漁場ごとに 1995 年以降の立縄漁業の CPUE（1 日 1 隻あたりの漁獲量）で判断した。
- 2022 年の資源水準は、銚子沖は高位、勝浦沖は高位、東京湾口は中位水準にある。最近 5 か年の動向は、銚子沖は横ばい、勝浦沖は増加、東京湾口では横ばい傾向にある。



銚子沖、勝浦沖、東京湾口漁場における立縄漁業による 1 日 1 隻あたり漁獲量の経年変化

資源管理の取り組み

- 漁場ごとに小型魚の再放流（銚子沖・勝浦沖全長 25 cm 以下、東京湾口全長 22 cm 以下）、針数・縄数の制限、休漁日の設定などの自主的な資源管理を実践している。

備考

- 東京湾口漁場では 2009 年以降、漁業者の高齢化等により着業隻数が減少している。
- 国が実施した資源評価では、関東沿岸から伊豆諸島周辺海域における 2022 年の親魚量は MSY を実現する水準を上回り、動向は増加と判断されている。